

なかはし
中橋
ともこ
友子 議員

障がいのある子どもたちの教育の充実を

障害を持ち特別支援学級または特別支援学校で学ぶ子どもが急増している。子どもの条件にあった支援教育を保障しなければならないが、現状は教職員の配置や施設の整備など、条件整備は十分ではなく改善が求められている。今後、特別支援教育の充実を図るために以下について考えを伺う。

- ①幕別町の特別支援教育を必要とする児童・生徒の障害別の人数と、教職員の配置など体制は。
- ②障がいなどを理由にした排除のない教育（インクルーシブ教育）の実施について。
- ③教職員の研修と十分な配置の計画は。
- ④少人数学級の実施について。



札内中学校第1学年クラスの様子

①児童生徒の障害別人数

	知的障害	病弱	視覚障害	言語障害	情緒障害	視覚障害	肢体不自由
小学校	11	3	1	6	32	2	2
中学校	7	3		2	4		

教育長

教職員の配置は、小学校6校に特別支援学級24クラスが設置され、担当教諭31名を配置。町単独事業の支援員を12名配置している。中学校では、3校に特別支援学級9クラスが設置され、担当教諭10名を配置。町単独事業の支援員を2名配置している。

②保護者が地域の学校に進みたいと希望した場合は、子供の学ぶ環境の整備に十分に配慮し、施設整備や人的配置に努めてきているところであり、今後においても、この考えに基づき、一人一人を尊重した教育環境の実現に努めていきたい。

③基準に応じたかたちで、教員を配置しているが、決して充足しているとは言えない状況であることから、町単独事業で支援員を配置し、支援を必要とする児童生徒に寄り添った少人数指導の充実に努

めている。

研修については、質の高い教育、専門性を高めるため各種研修会に参加できる環境づくりに努めていきたい。

④札内中学校の第1学年において35人学級が実現しているが、今後、町単独事業として教職員の給与等を負担し、少人数学級を拡大していくことについては、難しい面があることをご理解いただきたい。

指定管理者制度導入後の評価と今後の計画の再検討を

平成23年度指定管理者制度導入予定の9施設については、基本方針における導入の判断基準に基づき、さらに検討が必要であるものと判断し、来年度からの実施については見送る考えである。

指定管理者制度がサービスの向上と経費等の節減を図るという目的を達成しているかどうかを客観的に評価・検証する制度が必要であると考える。現在、評価制度の確立について今年度中に創設する予定で作業を進めていて、今後、これら4施設の詳細な検証を行いたいと考えている。

町長

指定管理者制度が導入されて4年、百年記念ホールなど4施設で実施されている。しかし、施設の内容や分野によって、経営の困難や、契約の期間が原則5年のため安定雇用が望めないなど問題が多い。

来年度からコミセンや町民会館など9施設が導入予定となっているが中止も含め再検討すべきである。また、これまで実施してきた施設の総合的な評価も伺う。